

ボランティアことはじめ

布絵本制作グループ 「そよ風」

制作から修理まで、梅丘図書館で続く布絵本作り

梅丘図書館は、区内で唯一、布絵本を貸し出していることで知られています。なぜ梅丘だけなのか。布絵本制作ボランティアグループ「そよ風」取材しました。

取材・文/木村万紀子

布絵本作り講習会から始まった

布絵本作りのきっかけは、平成22年の「国民読書年」。区内各地域の図書館が地域の特性に沿ったイベント企画を発表することになった際、当時梅丘図書館の館長だった白濱恭子さんは「地域の特色として、福祉の街・梅丘と図書館の倉庫にあった使われていない古い布絵本が結びつき、布絵本作りを思い立ったんです。布絵本は、障がい者、外国人、幼児や児童にも喜んで活用してもらえと考えたからです」と当時を振り返ります。

平成23年と翌年に、布絵本作り講習会を開催。その受講生が現在の布絵本作りグループのメンバー(全9人)として活動しています。

布絵本は、紙の代わりに布にフェルトなどで絵柄を縫い付けていきます。布の特性を生かして、ファスナーなどで動きを出したり、青虫がチョウに変身したり、仕掛け遊びがふんだんに盛り込まれています。文字は最後に専用のペンで書き入れます。



作業風景



歌の絵本など、現在24タイトル



色合いと重ね方を検討してから縫います

図書館の布絵本を作る活動を 知ってほしい、参加してほしい

布絵本作りの作業場は、梅丘図書館のおはなし会のための小部屋。作者の許可を得た絵本を題材に布絵本制作が始まりました。

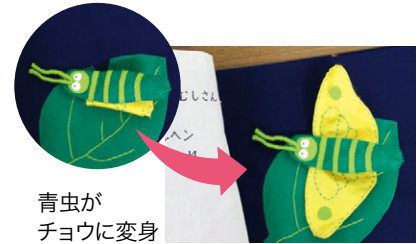
作品のテーマが決まったらページ構成や絵柄を表すサンプルを作り、あとは互いの得意な面を生かして共同作業で進行します。

絵柄の小部品の布を切り抜き、下層から順に丁寧に縫って重ねて立体的な絵が出来上がっていきます。「根気がいる作業ですが、絵柄の表現、色の組み合わせなどを工夫しながら作るのが楽しいので続けられます」とメンバーの声。

「布絵本の貸出・返却は梅丘図



梅丘図書館布絵本制作グループ「そよ風」のメンバー。後列左から3人目が発案者の元梅丘図書館館長・白濱恭子さん



青虫が
チョウに変身

書館の窓口限定です。どなたでも借りることができます。返却後は中身をチェックし、ほつれや部品の欠損を補修して、また貸し出せるようにするのもこの会の大事な役割です」と白濱さん。

活動を続けられたのは、活動場所や材料の保管場所、材料費などが梅丘図書館の事業として認められてきたから。タイトル数も着実に増え、現在24タイトル。

「今は100円ショップでも布絵本が買えますが、丁寧に手作りした梅丘図書館の布絵本に触れ、その魅力をより多くの人に知っていただきたい。また、興味がある方は活動日に見学にいらしてください。一緒に作ってみたいという方は大歓迎です」と生涯現役世代のメンバーからの熱いメッセージです。

梅丘図書館 布絵本制作 ボランティアグループ 「そよ風」

活動日：
第2・4木曜 13:00～16:00
第1・3土曜 13:00～16:00

■問い合わせ
梅丘図書館 ☎ 3323-8261